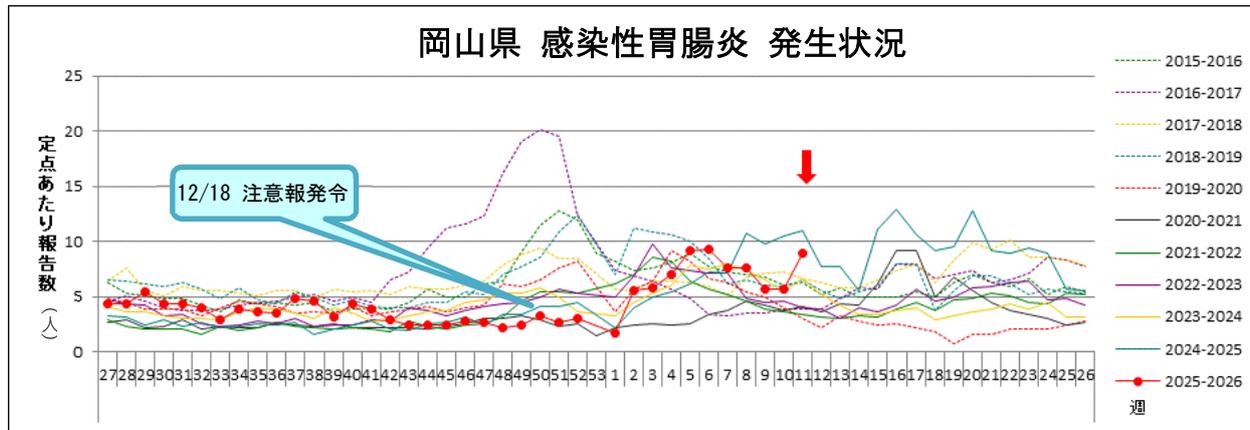


感染性胃腸炎週報 2026年 第11週 (3月9日～3月15日)

岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で251名(定点あたり8.96人)の報告がありました(28定点医療機関報告)。

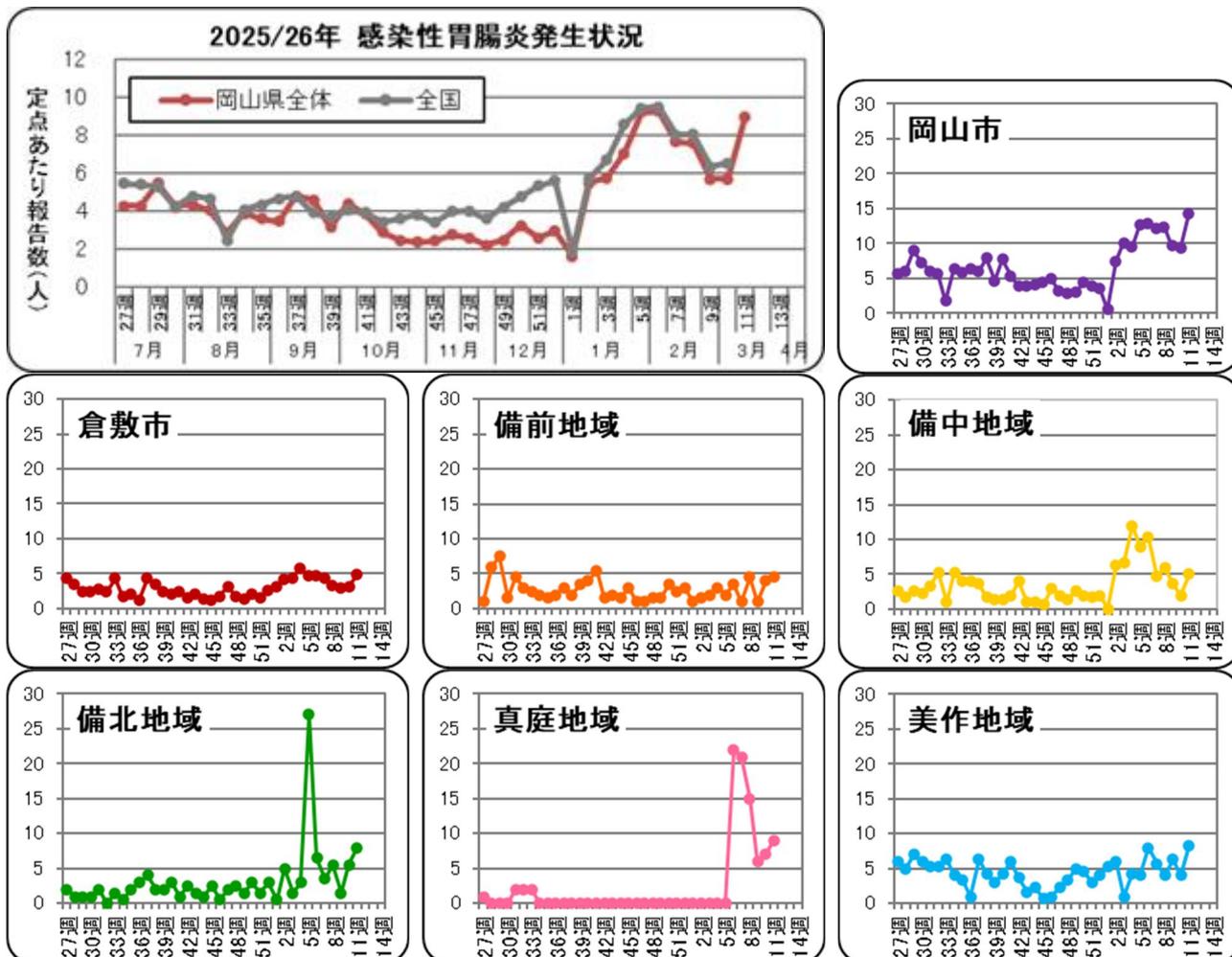


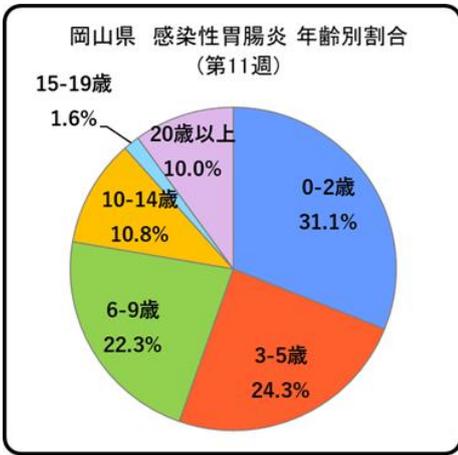
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年26週でグラフを作成しています。
 ※2025年第15週以降定点数が54医療機関から28医療機関になりました。

感染性胃腸炎は、県全体で251名の報告があり、前週から増加しました(定点あたり5.68→8.96人)。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底、食品の十分な加熱、おう吐物・下痢便の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況

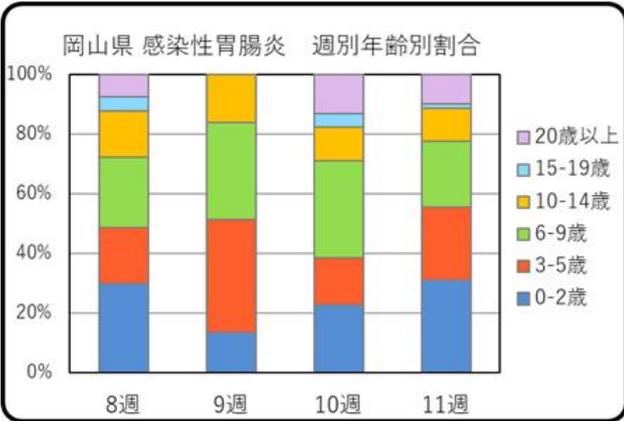




レベル3		レベル2		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値		基準値	基準値
20	12			0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がるまでレベル3が継続されます。

※数字は定点あたり報告数



小児科定点（28 定点医療機関）からの報告によると、2026年第11週の年齢別割合では、0-2歳 31.1%、3-5歳 24.3%、6-9歳 22.3%の順に多く報告されています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に 気をつけましょう ◆◆

<予 防 方 法>

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。



2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。これらを処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)

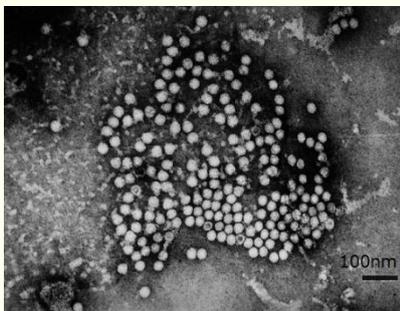
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

●ノロウイルスに関するQ&A(厚生労働省)

◆ ロタウイルスにも気をつけましょう ◆

●ロタウイルス(厚生労働省)



ノロウイルスの電子顕微鏡写真
岡山県環境保健センターウイルス科 撮影

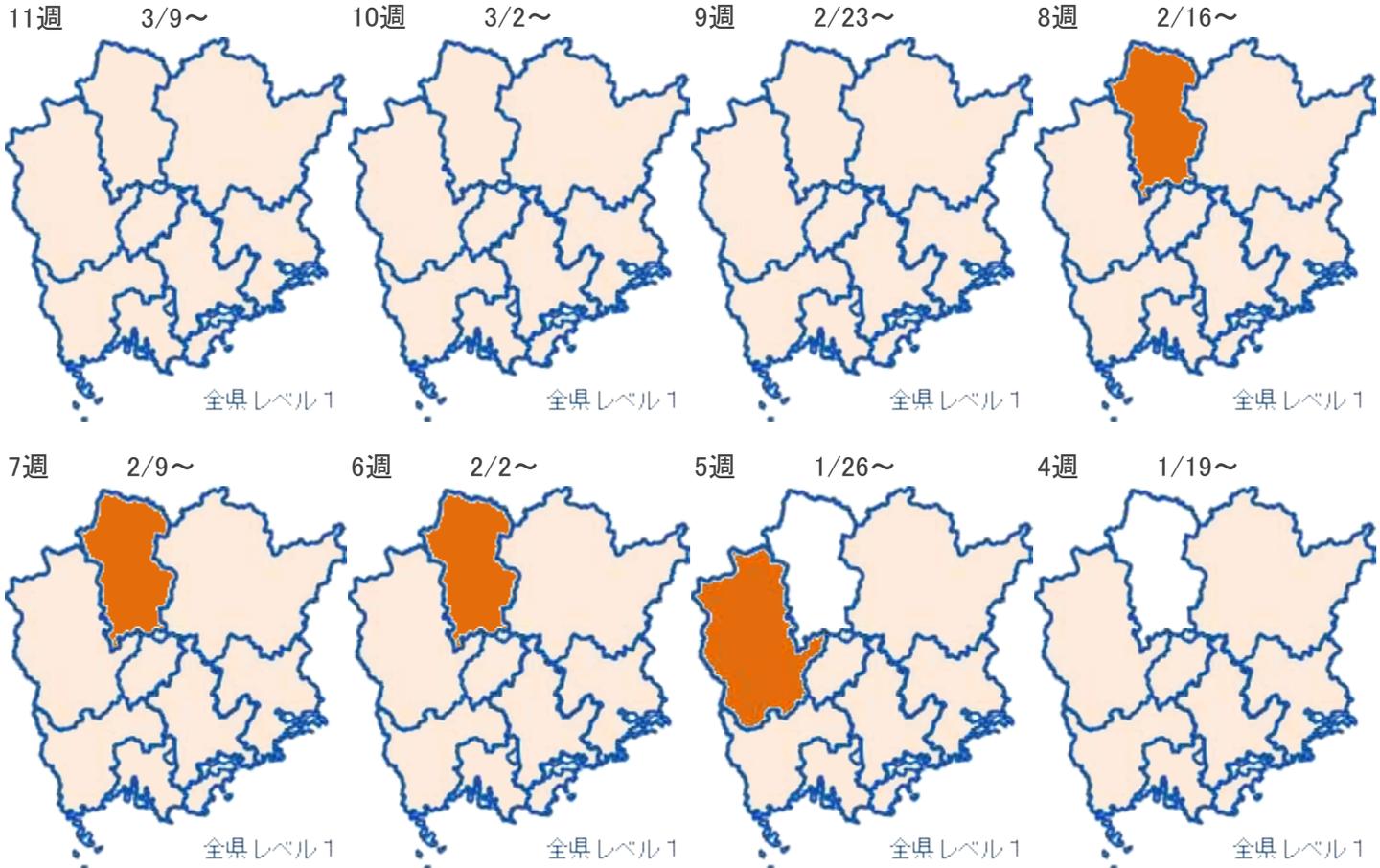




岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2026年 11週

2026年3月18日

9:32:10



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がるまでレベル3が継続されます。